

飛騨市薬草ビレッジ構想推進プロジェクト  
令和3年度事業 実施報告

■薬草拠点「ひだ森のめぐみ」の運営

古川町内にて薬草の拠点を運営し、延べ4,988名(4~2月合計)が来館。今年度は特に薬草加工サービスの利用件数が増加し(2月時点・前年比190%超)、市民の薬草利用推進に寄与しました。また、拠点での薬草体験プログラムを通して、観光客へ新たな地域の魅力を発信することができました(体験プログラム利用者2月時点前年比160%超)。



■朝霧の森薬草園の活用推進

森歩きを楽しみながら薬草を体感できる「朝霧の森(古川町黒内)」において、薬草園の補修、薬草の移植、植物の案内看板更新、散策マップの作成などを行いました。薬草の勉強会や、健康ウォーキングも開催されるなど、多数団体での森の活用が進んでいます。



■県や企業と連携した薬草の栽培技術・成分などの研究

薬草事業の産業化を見据えて、代表的な薬草「メナモミ」などの効率的な栽培手法を研究し、取りまとめました。最終的には栽培のマニュアルとして整理する予定です。また、市内に自生するメナモミ株の成分分析を行った結果、有用成分が多く含まれていることが確認できました。いずれの成果も、今後の事業展開に活用する予定です。



■薬草フェスティバルの開催

薬草の普及を目的に飛騨市薬草フェスティバルを開催。薬草商品の販売、体験、展示、勉強会などを古川町内各地で行い、市内外より約300名が来場しました。



■その他普及活動

動脈硬化などの予防効果があると言われる「メナモミ」の市内普及を目指し、苗の無料配布、市民農園での栽培及び一般公開、レシピの発信などを行いました。

また、各種ワークショップやオンライン料理教室の開催、薬草商品の開発補助、関連商品の出張販売、薬草通信の発行などを行い、薬草の普及に努めました。

